

## ナラ枯れ被害

ナラ枯れのニュースを耳にしたことはありませんか？

ナラ枯れとは、カシノナガキクイムシ（以下「カシナガ」という）という在来の甲虫が運ぶナラ菌（病原菌）により樹木が枯死する樹木の伝染病です。ミズナラ・コナラのナラ類の被害が多く、シイ・カシ類にも被害が見られます。山梨県では令和元年度、神奈川県では平成29年度から被害が確認されています。

被害木はナラ菌の作用により、水分などを吸い上げる機能を失い、紅葉時期ではなくても急速に葉の色が赤褐色に変色します。また、木の幹の低いところに直径2mmほどの小さな穴が多くあけられ、木の根元にフラス（木くずとカシナガの排



泄物が混ざった粉状のもの）がたまっているのが特徴です。

また、ナラ枯れの影響として、景観の悪化、落枝や倒木による危険性、きのこ栽培に利用される木材資源の減少など、森林の持つ公益的機能への悪影響の可能性が懸念されています。

なお、カシナガは直径10cm以下の樹木では繁殖しにくく、大径化した広葉樹の森林で被害が多く見られています。全国的なナラ枯れの拡大の背景として、1960年代の燃料革命や木材価格の低迷により、薪炭林が放置され、ナラ類の大径木化が進んだことがあげられます。

現在、桂川・相模川流域では、山梨県南都留郡山中湖村や忍野村、神奈川県相模原市や厚木市での被害状況が多く報告されています。豊かな地下水を育むには、森林が健康でなければなりません。

協議会としても今後の状況を注視していきます。（写真提供：山梨県森林環境部森林整備課）



### 入会のご案内

あなたのその力が豊かな水環境を創ります。

協議会では、さまざまな活動を通じて、水環境の保全・再生に努めています。

桂川・相模川流域協議会に興味をもった方は、是非入会して下さい。入会手続きは、下記事務局へお問い合わせ下さい。

原稿  
大募集

#### 募集要項

- テーマ「あなたの好きな流域の風景」
- 文字数は800字程度と写真数枚で1ページに収まるもの
- 応募原稿は自作未発表のものに限ります。

#### 応募方法

お名前、ご住所、お電話番号を明記の上、下記事務局あて郵送又はメール (ft-rinmuk@pref.yamanashi.lg.jp) までお送りください。

採用された作品はあじえんだ113第47号以降に掲載します。また、採用された方には粗品を贈呈いたします。たくさんのご応募をお待ちしております。

表紙写真／撮影場所：田原の滝 写真提供：都留市観光協会  
本紙に対するご意見・ご感想を下記事務局までお寄せ下さい。

あじえんだ113 No.46(2021.3発行)

発行 桂川・相模川流域協議会  
編集 あじえんだ113編集委員会

桂川・相模川流域協議会ホームページアドレス <http://katurasagami.net/>

事務局 山梨県森林環境部富士・東部林務環境事務所 〒402-0054 都留市田原2丁目13-43 TEL.0554-45-7811 FAX.0554-45-7807  
神奈川県環境農政局緑政部水源環境保全課 〒231-8588 横浜市中区日本大通1 TEL.045-210-4358 FAX.045-210-8855



■やまなし森の印刷紙  
この印刷紙には、FSC®  
森林管理認証を取得した  
山梨県有林からの木材が  
使用されています。



ユニバーサルデザイン  
(UD) の考えに基づいた  
見やすいデザインの文字  
を採用しています。

# あじえんだ

2021.3  
第46号

- 流域シンポジウム
- 川の記憶を訪ねて
- 相模川水系の魚たち
- 山梨百名山⑥本社ヶ丸

# プラスチックごみはどこから？

～川から、街から、私たちの生活から～ 開催報告



■開催日：2020年10月25日（日）13:00～16:00  
 ■会場：山梨県富士山科学研究所からZoomにてオンラインで配信  
 報告者●日向治子（市民会員）

全世界の海には50兆個以上のマイクロプラスチックが漂っていると言われています。その発生源はどこにあるのでしょうか。原因はポイ捨てばかりではありません。私たちは日々生活の中でプラスチックを使い、ごみとして捨てています。それらの一部もうっかりすると街から、川に、そして海に流れ出しています。海のプラスチックごみはどこから来るのか。それを検証し、私達が市民の立場で出来ることは何なのかを考える機会にしたいと思い、会場開催の難しい今年度は完全オンラインという桂川・相模川流域協議会としては新しい試みとして、87名の方にお申し込みいただき、開催いたしました。

## 開会式

### 桂川・相模川流域協議会の20年のあゆみの紹介ビデオ

桂川・相模川流域協議会が発足して22年。様々な活動の元となった設立の経緯や、当初から一貫した環境活動のあゆみを10分程度のビデオにまとめてお届けしました。

当時は、行政・市民・事業者の3者が一体となって意見を交換し、協働して目的を達成していくというシステムは大変珍しく、先駆的な試みのスタートであり、桂川・相模川を悠久のものとして将来の世代に引き継ぐための基本理念「アジェンダ21 桂川・相模川」への足跡が垣間見えました。

### 開催地、富士吉田市長の挨拶

開催地の富士吉田市長からは、以下のような「ビデオメッセージ」（抜粋）が届きました。

① 「富士山を源とする桂川は、御師の住む上吉田

じゆく 宿へと流れる聖なる川「ヤーナ川」と呼ばれ、神となった白いへびが下る川と伝えられております。このため、街の人々は、この川を常に美しく保つことに努めるなど、自然に対して畏敬の念を持ち、大切に保全してまいりました。

しかし、私たちが暮らす現代社会は、大量生産・大量消費・大量廃棄に見られるように、価値観の多様化やライフスタイルの変化に伴い、環境負荷が増大しており、これによって地球温暖化や海洋ごみ問題、森林の荒廃など、地球環境を脅かす様々な環境問題への対応が課題となっております。特に近年は、マイクロプラスチックの問題がクローズアップされております。

本日のシンポジウムが、その1つのきっかけとなり、この、清く豊かな桂川、相模川が、未永く未来に引き継がれてゆくことを大いに期待しております。」

## 基調講演

テーマ

# 海のプラスチックごみ問題の真実

講師●磯辺 篤彦 九州大学応用力学研究所教授



海洋プラスチック研究の第一人者として、環境省の研究プロジェクトや、国際協力機構と科学技術振興機構の研究プロジェクトでリーダーを務める、九州大学教授：磯辺篤彦氏から、20数年間の現場での調査から「海のプラスチックごみ問題」について、現状と取り組み、そして今後取り組まなければならない課題などを研究データや多くの写真を紹介して解りやすくお話しして頂きました。

### ・海から流れ着くプラスチックゴミの問題は決して新しい課題ではない

長崎県・五島市・奈留島大申地区での2009年の写真でも分かるように、すでに海岸には多くのプラスチックごみが漂着している。人が入る海岸ではないので、ここに来た人が捨てたものではない事は明らかである。これらは対馬暖流沿岸分岐に乗ってきたものと推測される。

多くは海外からのものであると思われるが、日本のラベルが付いたものも多く確認できる。



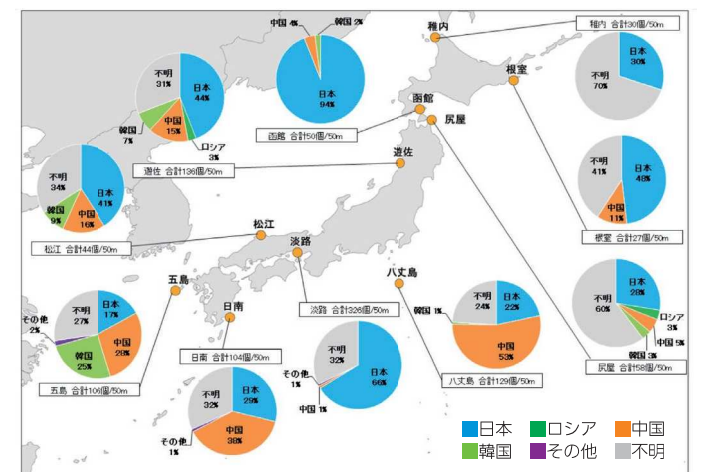
### ・海岸のペットボトルは海外から流れてくる？

海岸に漂着するペットボトルはどこから流れてきたものなのだろうか？

H23～H26、環境省が全国7カ所の海岸で調査した日本の漂着ごみのデータから、ボトルの蓋、ロープ、木材、ペットボトル、シートや袋の破片、ウレタン、テープ、食品容器（トレイ）、漁具などが上位を占めている。多様なごみの種類から、発生源も多様であることを示している。

しかし、海で捨てられたものは一部で、ほとんどは内陸で投棄されたものであり、川から海に出ている事が分かる。

環境省が報道発表した「全国10地点における漂着ごみ調査（平成29年度）等の結果について～漂着、漂流、海底ごみの実態把握に向けたサンプル調査等～」のデータから、「ペットボトルの言語表記別割合」を見ると、各地において日本から流出したものが多く分かる。



ペットボトルの言語表記別割合（平成29年度調査）

### ・海洋プラスチック汚染を解決する答えはあるのだろうか。

#### 清掃活動について

リデュースやリユース、海岸でプラスチックゴミを掃除することは、景観保全だけではなく、マイクロプラスチックになる前に取り除くという意義がある。マイクロプラスチックは、一個あたり0.1 mg程度なので、10 gのゴミが10万個になる。10gのプラごみを海岸で拾うということは、太平洋1km四方に浮かぶマイクロプラスチックを、片手でヒョイと取り除くということに等しい。**プラスチックは富裕層の贅沢品ではない事を認識する**

プラスチックが私たちの周りや世界で衛生・福祉を向上させてきた事実を軽視するべきではない。

プラスチックを使うリスクと使わないリスク。極端な予防原則は別のリスクを生むという事も考えるべきである。

G20 大阪ブルーオーシャンビジョンにおける国際的な取り組み

- 2050年までにプラスチックごみによる追加的

な海洋汚染をゼロにする。

- プラスチックの有用性に留意しつつ科学的な証拠に基づいて、no one will be left behindが体现できるように、社会や国家間の合意形成(合意形成を図る国際的な枠組みが必要)を経て、弱者に配慮しつつプラスチック廃棄量の削減を図る。

事例発表

1. 「山梨県プラスチックごみ等発生抑制計画」について

●山梨県森林環境部環境・エネルギー課

2020年3月に施行された「山梨県プラスチックごみ等発生抑制計画」。内陸部の県では日本で初めての取り組みです。

山梨県では、今までもスーパーでのレジ袋の有料化を2008年から実施しており、県と市民が連携して呼びかけ実践する協働事業を推進してきま

した。

今回のこの「山梨県プラスチックごみ等発生抑制計画」をより実行化するために、山梨県では多くの分野で活動する団体の協力を得て、やまなしプラスチックスマート連絡協議会を設立して、より市民との連携・協働に向け取り組んでいきます。

2. 「レコプラダイエットの取り組み」について

●NPO 法人海の森・山の森事務局代表 豊田直之氏

報道されている以上に、プラスチックのごみはあふれています。海底でも、堆積した土の中にプラスチックがたくさん埋まっています。埋まった中からまたマイクロプラスチックになるという怖い状態です。

大岡川 PGT 大作戦 (P プラスチック、G ゴミ、T 獲ったどお) では川面を流れるゴミの回収や、城ヶ崎沖や、茅ヶ崎沖でダイバーと一緒にゴミ回収していますが、総量も多いのですが、プラスチックとペットボトルの割合がかなり多いです。これをどうにか減らせないかということで、記録して減らそう! プラスチックごみ! 「レコプラダ



イエット」を始めました。記録することで、 unnecessaryプラスチックを減らせる。そんな試みをしています。プラスチックは決して敵ではないけれど、安易に使う事は避けたいです。このような取り組みを通して意識改革が出来ればと思います。

3. 「キッズカレッジ SAKUYA の取り組み」について

●キッズカレッジ SAKUYA 代表 日向治子氏

「夏休みの友」のちいさなコラムで紹介された「海のプラスチックごみの問題」を見て、何が起きているのだろうか?」が出発点。大磯海岸の清掃活動で、目の前にあるプラスチックごみが波にさらわれたのを見て「あのプラスチックはどうなるんだろう? 海水を飲むアオバトは平気だろうか?」と考えました。

自宅学習が続く中で、ネットで出会ったPBLの仲間達とのディスカッションと、絵本「ステラ



とカモメとプラスチック」のリレー朗読。これらから、「生活からプラスチックを減らそう。」と動き出した活動は、「ヘチマでスポンジづくり」と「記録するだけで減らせちゃうプラごみダイエット」。

トークセッション

基調講演の磯辺氏、事例発表の山梨県環境・エネルギー課、豊田氏、日向氏の4人をスピーカーとして、「海のプラスチックごみの課題解決にむけて」トークセッションを行いました。

海から離れた内陸にいと、海で起きていることを実際に見る事も少ないので、自らの問題として捉える事が難しい。それをいかに意識改革していくかが、課題解決のポイントである。

そしてプラスチックのリサイクル率を最大限に上げていっても、1%以上のものがごみとして流出することが分かってきている。そうした面から考えても、一番に取り組む事はリデュースであり、ごみを減らすというよりも、プラスチックそのも

子ども達の活動は始まったばかりですが、ここから何が生まれてくるか見守っていきたいと思います。

のの全体量を減らしていく必要がある。

課題解決に向けては、私達の生活様式への意識や、清掃活動などを続けていくモチベーションの維持が必要で、市民活動では「海が好き」「おいしい魚介類を食べるのが好き」「好きな海だから守り、子ども達に繋げたい」などの想いがそれを支えている。これからは、いろいろな分野との連携が必要となるが、お互いのスキルを抱え込むのではなく相互に出来る事で協力していく事が大切である。

それぞれの現場での話題を織り込みながら、意見交換が行われました。



シンポジウムに寄せられた質問

オンライン上でお答え出来なかったご質問について、誌面をお借りしてお答えいたします。

(質問)

・人には食品を通してどれくらい取り込まれているのでしょうか。

・「オーストラリア環境庁とウィーン医科大学の研究チームが世界で初めて人におけるマイクロプラスチックに関するパイロットスタディを行った。

被験者は、1週間食事内容を記録し、検体の便を確認。被験者全員がプラスチック包装の食品または、ペットボトル入り飲料の摂取を介して、プラスチック「曝露(有害物質や病原菌などにさらされる)」していることがわかった。また、被験

者は大半が海産魚などを摂取していた」との事をネットで見掛けました。具体的にどれくらい取り込まれているのでしょうか。

(回答)・・・磯辺篤彦氏

週に0.1~5g程度であるとの論文が、今年にウェブリリースされて、来年に紙ベースで出版されます。ただし、だから毒というわけではなく、この値をベースに、今後は影響評価をしてほしいとのことです。

参考文献

Senathirajah, K. et al. (2021, J. of Hazardous Materials, 404, 124004) "Estimation of the mass of microplastics ingested - A pivotal first step towards human health risk assessment"



●鈴木千春／あらいそECOクラブ



強することにしました。介護施設で働いているので昨年『介護職員初任者研修』という講座を受講し、「大人になってから」の勉強って面白いのかも？と思ったこともきっかけになりました。いつまで自分が働けるのか、どうやって子どもたちの学費を工面し、どう生計を立てていくのかとお金にかかわる心配は尽きませんが、人生折り返し、今度はどう社会に還元していくかも考えながら生活できるようになっていきたいと考えた巣ごもり生活を送っていました。



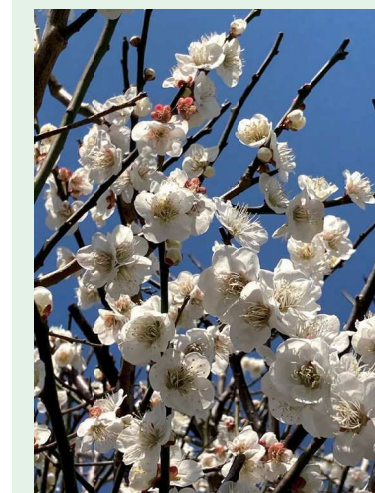
そんな中、娘から「相模原市って2020年度SDGs未来都市に選ばれていたよ。」と聞いて驚きました！娘の方が情報通……というか、新聞をとらなくなった我が家で私は広報さがみはらも読んでいなかったのです。巣ごもりながらも社会に目をもっと向けていかななくては。

コロナ禍で暖房をつけながら換気のために窓を開けることに必死だった今、環境に配慮した生活がどうしたら送れるのか、衣食住すべてにおいてアイディアを出し合っている社会を目指し、このオリンピックを開催しようとしている日本にできることがあると信じて、考えていきたいと思っています。

## エコのつばやき

### コロナ禍での巣ごもり生活

第1波・第2波とコロナウィルスまん延を抑え込んだと思われたのも束の間、1月に緊急事態宣言が再度発令され、高校受験を控えた子どもを持つ親としては気の抜けない日々を過ごしました。職場で実施しているようなアルコール消毒や、寒い中窓を開けての換気を家でも行い、食材を買いにスーパーに行くほかは家で過ごしました。また、ネットスーパーもあると聞き、初めてイオンのサイトに会員登録をして注文したところ、ドライブスルー形式で受け取ることも選択でき、いろいろ考えられていると感じました。そういえば、前回紹介させていただいたエコバッグですが、毎回持参してスーパーに出かける習慣ができました！これからも使っていきたいと思います。



巣ごもり中、ようやく片付けが苦手な私も少しずつ我が家に目を向け始め、主人が誕生日にくれた花を飾ってみたり、庭の梅の花が咲いて枝を切って生けたり、はたまた猫の額ほどの庭で育ったブロッコリーを収穫し食卓に出すに至るなど、四季を感じる暮らしが増えたことは有難いことかもしれません。息子が本格的に受験勉強を始め、塾に行っている間に私も何か勉強してみようと思ひ立ち『糖質OFFアドバイザー』という講座を申し込んで勉

# 川の記憶を訪ねて(20) ●小島 瓊禮／愛川町在住 琉球大学名誉教授 桂川の桂里と 相模川と



道志川の谷 紅椿の湯の上流

江戸時代には、桂川の水源地は、あの富士吉田市にある月江寺の境内から湧き出すとする文献がある。天保十二年(一八四一)成立の幕府の地誌『新編相模国風土記稿』である。相模川は富士山の北麓、甲州都留郡吉田村の月江寺に発し、同郡の間を東に流れること十余里で、その間は桂川と呼び、相模国津久井県内では、相模川と称すとある。河口湖の伏流水が湧き出したという、あの池の水である。

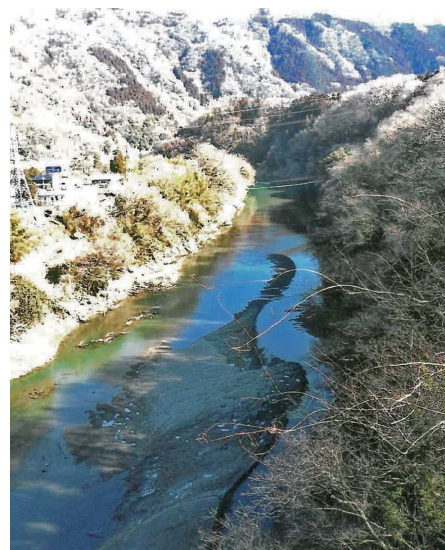


相模川(桂川)と道志川の合流点を望む 正面の山の裾を左から流れて来るのが相模川 右手手前から正面の山裾に向かう流れが道志川 旧寸沢嵐村沼本から

に沿った十一カ村にわたって「桂里」の称があった。「桂里」の地元の村では、相模川を桂川と呼んでいたと聞く。

相模国に入ると相模川と称したというのは、公的な場合であったかもしれない。そうなれば、桂川に沿って「桂里」が続いていたことになる。月江寺に連なる桂川に結ばれた、「桂里」である。しかし、この十一カ村の桂里は、思い掛けない形で途切れる。甲斐国南都留郡道志村から流れ出す道志川が、桂川と合流する、三ヶ木村と対岸の寸沢嵐村までである。寸沢嵐村は、親村の若柳村に「桂里」の称が生きていた。

これは、桂川の「桂里」という呼び名に、特別な意味があったはずである。合流したあとは相模川の称に統一されるのを見ると、そこまでは、桂川が独自の領域を主張し続けていたこと



道志川合流点直前の流れ 現在は津久井湖の貯水で、合流点は水没している旧寸沢嵐村沼本にて 上方が相模川

になる。それを支えていたのが、「桂里」という村の呼び名である。

道志川の合流点で、それも消滅するのを見ると、道志川の水源地の村には、異った伝統があったにちがいない。道志川が湧き出す村は、「桂里」ではなく、合流後の川の名も「相模川」である。源流の村も「相模郷」がふさわしい。九世紀を写す『和名類聚抄』には都留郡に「相模郷」があり、道志村が相当する。この地域は、延暦一六年(七九七)には、朝廷の裁定で相模国に属していた。

『風土記稿』によると、道志川の下流がかかると津久井県の牧野村と青根村の二村には、「佐々良木里」という唱えがあった。「桂里」に習うと、これが道志川の古い呼称であったかとも思える。桂川と道志川の対応関係は、「桂里」と「佐々良木里」の対応に置き換えられる。道志川の歴史をもう一步深めてみたいものである。津久井町『津久井町史』資料編「近世I」では、語義不明として「ささら」の意味を紹介しているが、「桂」に代わる樹木の呼び名であろう。

写真提供/NPO愛ふるさと  
撮影/小倉久典 令和三年一月三十一日午前

## 河川敷や丘陵に見られる植物

●長岡 恂／厚木植物会 会長



### センダン (センダン科)

「牧野日本植物図鑑」(1940年初版)に暖国ノ海辺山地ニ自生スレドモ普通ニハ人家ニ栽ウル落葉喬木…とあり高さ20mほどにもなるので現在の一般家庭ではとても植えられない。家具材として有名なマホガニーの仲間。伊豆半島以西に分布するが、古くから暖地の各所に、街路樹や公園樹として植えられているので天然分布区域は不明瞭。5～6月にかけて、集散花序を出し、薄い水色の小花をたくさん咲かせる。5個のガクと5枚の花弁を持ち、10本の雄しべが合着して紫色の筒になっている。筒の先に葯(やく)があり白い花粉が見える。

冬日、高い梢に落葉後も残った白い果実は、晴れ渡った青空に凜と輝きとても頼もしい。薬用植物としても知られ、果実はしもやけ、樹皮は虫下し、葉は虫除けにするなど昔は重宝にされたようだ。

「せんだんは双葉より芳し」という有名な言葉があるが、これは白檀(ビャクダン)の中国名「梅檀」を“せんだん”と読んだもの。ビャクダンはビャクダン科の半寄生の熱帯性常緑樹。爽やかな甘い芳香が特徴で材は仏像彫刻、仏具などの材料として利用されるが希少で流通していない。日本では冬の寒さが厳しく植栽はむずかしい。

### ムラサキシキブ (シソ科)

秋の初めごろ、雑木林の中でこのムラサキシキブに出会うとなぜかホッとす。日本原産で英名 Japanese beautyberry とよばれ赤紫に輝く実は世界中の人々を魅了しているようだ。でも、近所の谷戸の林縁では実が小さく実付きも悪い樹が多い。開花の時は艶やかで実の時期を期待しているのだが…日照が少ないのかも。クマツヅラ科ムラサキシキブ属だったが、最近シソ科に移された。雌雄異株の低木で、里山のあちこちで見掛ける。野鳥が実をついばみ各地に種を散布しているからだろう。ヤブムラサキもあり同じような環境に生育している。見分け方はヤブの葉にはフカフカの毛(星状毛)がたくさんあり葉の表を触って見ればすぐわかる。隣同士で生えていることもある。

和名の由来は、江戸時代の植木屋がこの宝石のような紫色の実を「源氏物語」の作者、紫式部になぞらえて付けられたと言われる。

和風や寺院の庭には近縁種のコムラサキの植栽が多い。別名をコシキブともいい、樹高1～2m。細い枝が長く伸びて弓状に枝垂れ、ムラサキシキブに比べると果実が多数びっしり固まってつくのが特徴。実が白いシロシキブ(白式部)はコムラサキの園芸種、こちらも親しまれている。



## ヒラタドロムシ

●守屋 博文／神奈川昆虫談話会

### ○丸い形がよく目立つ

ヒラタドロムシの幼虫は、英名で Water Penny (ウォーター・ペニー) といわれるように、まるでコインのような丸い形をしています。ヒラタドロムシの仲間は、国内に24種が確認されており、本種はヒラタドロムシ属5種の中の1種です。桂川・相模川水系では、上流から中流域を中心に広く分布し、流れの緩やかな場所を好みます。

幼虫の大きさは約8mm、体色は茶褐色ですが個体により濃さには差があります。おなか側を見ると、頭部や胸部と脚、腹部が確認でき、6対のえらもあります。体の上部は側葉片(そくようへん)という器官が伸びこのような形を作っています。石の表面にぴったりとしがみつき、移動しながら石に付着した藻類を食べています。蛹の時期になると、川から出て陸上に上がり、石の隙間などで蛹になります。

### ○灯りによく集まる成虫

成虫は夏に見られ、川岸の石の隙間や植物の葉などの上に止まっています。昼間さがしていても

あまり見つからないのですが、夜になると灯火によく集まります。過去の調査でも、白布をはって灯りをつけ昆虫を集める灯火採集を実施していると、おびただしい数の本種が集まってきたことがあります。体長は6～8mmほどで、幼虫と同じように扁平で黒色、上翅は少し光沢があります。

### ○水にもぐって産卵

産卵は水の中で行われます。遊泳することができませんので、川の近くや石の上に飛来し、歩いて水の中に潜っていきます。産卵時期に川の中で調査をしていると、石の表面に多くの成虫が点々とみられ、黄色い卵が整然と産み付けられている場面に何度も出くわしたことがあります。

ヒラタドロムシは身近な水生昆虫で、その数も多いのですが、同じ形態をした近縁種も多く生息しています。本流や支流、細流、湧水流、水の滴る岩盤など、本種の仲間が生息する環境は多様です。ぜひいろいろな場所でヒラタドロムシの仲間を見つけてみてください。



幼虫



成虫

# オオクチバスとコクチバス

●工藤孝浩／神奈川県水産技術センター内水面試験場（文・写真）

ともにサンフィッシュ科オオクチバス属の北米大陸原産の外来種で、両種あわせて「ブラックバス」と呼ばれています。魚食性が強く引きが強いことから、ルアー釣りで高い人気があります。

一方、食害により在来の生態系に深刻な影響を与えるとして両種とも特定外来生物に指定されており、生きたままの移動や飼育はできません。また、神奈川県・山梨県ではオオクチバスは漁業権がある水域で（芦ノ湖と河口湖を除く）、コクチバスはすべての水域でキャッチ・アンド・リリースが禁止されています。

どちらも淡水魚らしくらぬクセがない白身です。皮目に臭みがあるとされていますが、水がきれいな場所のものは大変に美味しいので、釣れたら食べてみてください。

## オオクチバス



オオクチバス成魚（2020年9月16日宮ヶ瀬湖産、標準体長215mm）



オオクチバス幼魚（2020年11月9日相模川本流六ツ倉ワンド産、標準体長35mm）

コクチバスとの見分けは次のとおりです。その名のとおり口が大きく、上アゴの後端は眼の後端を超えます（コクチは超えない）。鱗はやや大きく、背鰭の基部から側線までの鱗は7～9枚です（コクチは10～14枚）。成魚では生鮮時にエラブタの後端に白斑がありません（コクチは1白斑あり）。幼魚では、体側に1本の黒色の縦線または縦列斑がありません（コクチは体側に多くの横帯あり）。

日本への移入は1925年に米国産の種苗が芦ノ湖に放流されたものが最初とされており、現在は北海道から沖縄まで全国各地に分布しています。相模川水系へは、1960～1963年に相模湖と津久井湖へ放流された記録が最も古いようです。止水域を好み、ダム湖やワンドのほか、取水堰や頭首工上流部の湛水域で比較的普通にみられます。

繁殖期は春～初夏。雄が砂礫底にすりばち状の産卵床をつくり、雌が産卵したら、雄はその後卵やふ化した仔魚をしばらくの間保護します。産卵床を離れた稚魚は群れをつくってプランクトンを食べて成長し、3cm前後になると単独で生活し、5cmを超えれば魚食性になります。

## コクチバス



コクチバス未成魚（2019年12月26日相模川本流平塚市四之宮地先産、標準体長78mm）



コクチバス幼魚（2018年6月25日相模川本流平塚市大神地先産、標準体長29mm）

国内では1991年に長野県野尻湖で確認されたのが最初の記録で、その後10年間で秋田県から宮崎県までの27都県へと急速に分布を拡大させました。相模川水系では、宮ヶ瀬湖でダム竣工前の2000年に初めて確認され、その後急速に個体数が増加しました。そこで当時は、2004年からダム管理者と調査を重ね、刺網による捕獲と産卵床の破壊による個体数抑制マニュアルを作成しました。

宮ヶ瀬湖で調査と管理を続けた結果、個体数が激減し2018年以降3年続けて捕獲ゼロとなりました。全国でも例がない低密度管理が実現したのです。しかし相模川本流域では、2018年に現場調査で初めて本種が確認されました。幼魚もみられることから本流域への定着は確実視されており、オオクチバスより流水への適応力があることから、分布の拡大に最大級の注意を払う必要があります。



コクチバス成魚（2010年9月5日長野県野尻湖水深5m、全長約400mm）

# 山梨百名山

## 本社ヶ丸 1,631m

報告者●中村光義／市民会員



本社ヶ丸山頂より三つ峠越しの富士

▲本社ヶ丸は、どうして本社ヶ山でないのか。「丸」とはなんだと気になると、南大菩薩の長い尾根には、大倉高丸や白谷ヶ丸とお仲間がいる。丹沢だって檜洞丸、畦ヶ丸と負けていない。近年になって読んだ本に、大化の改新前後、桂川流域には多くの百済人が移り住み、その古い朝鮮の言葉に山を「マル」と呼ぶとの記述があった。▲そんな疑問がまだ解けない頃、寒い笹子駅で降り、甲州街道を西に辿り、稲村神社を横目に、本社ヶ丸を目指した。40年も昔の初春のことだった。記憶にあるのは清八峠までの急登の辛さ。凍結した道を「笹子からの登りはいつもなんでこんなに急なんだ」と悪態付き付き喘ぎつつ登った。罰があたったのか下山で迷った。鶴ヶ鳥屋山からの下りで、里から聞こえた選挙カーの鶯に引かれたのが間違いの元だった。

▲2回目の訪問は、稲村神社の裏手から取り付き、尾根を辿って大沢山、清八峠、本社ヶ丸。それなりのバリエーションルートだった。3度目は楽しんで登りで、三つ峠の御坂トンネル側から入り、平坦な林道を辿った。体力的には楽で初心者向きだと思った。

▲久しく遠ざかっていたこの山に、2年前、山仲間と登った。都留IC近くで桂川に合流する大幡川に沿って西に向かって車で行くと、突き当りは宝鉾山跡。ここを拠点に周回コースで本社ヶ丸を登る計画。登りに「から笠岩コース」という名のルートをとった。「から笠岩」という不思議な形の岩との出逢いがあると聞く。

▲道標はほとんどなく、予習をしていないと出だしから迷う。壊れた野鳥観察小屋の脇を抜け最初の鉄塔まで来る。左右に踏み跡があるが、地図読みでここは左へ。道は次第に尾根を行くようになり、それなりに明瞭になる。はっきりしたピークに立つと、目指すコースの全容が見える。急坂である。一度、鞍部に降り立ち、いよいよ「から笠岩」探しの尾根に取り付く。なかなかの急登で大きなブナのところで一息つく。此処まで2時間も費やす。第一発見者にすべく、先を譲って進むこと30分。ルートを右に外したところに、尖ったおにぎりが微妙なバランスで台座に載っているような大岩が鎮座していた。これが探していた「から笠岩」だった。

▲この山行の目的の一つは無事クリアだったが、ここから山頂までのルートはちょっと複雑。左にトラバース気味に行き、小尾根に着いたら、これを少し登って、更に、左にトラバース。本社ヶ丸の東の肩に突き上げる大きな支尾根に出たら、後はこの急登をつめればいい。下山では直進しそうで迷いそうな場所だ。

▲明るくなった一般コースとの合流部に小さな道標があった。左に10分程で岩の間を登るとミツバツツジが咲く山頂。休憩こみで約4時間。この山は笹子側、宝側、どちらから登っても、それなりにハードに登りごたえのある山だ。三つ峠越しの富士が美しく、双眼鏡で覗くと甲斐駒と八つの間に北アルプスが見えた。

▲下山は一般コースを引き返し、気分の良い明るい尾根を50分程歩き、大きな鉄塔まで行く。最後の展望を楽しんでから、御座石までの下山を始める。「から笠岩コース」と違って国土地理院の地図にルートが載っているが、道は荒れており、地図読みが必要。沢に降り、鉾山跡の入り口が見えるまで気が抜けなかった。

